



# 〈公開〉生と死に寄り添う

被爆と終戦から 70 年、阪神淡路大震災から 20 年と節目の年を迎えていますが、改めて苦しみと向き合う人間とともにある死生学の意義が浮かびあがります。東日本大震災から 4 年が経過しましたが、今後もますます問われる死生学のために、どうぞ公開講座とシンポジウムにご参加くださり、ご指導とご協力をお願いいたします。

2015 年 4 月

東洋英和女学院大学死生学研究所 所長 渡辺和子

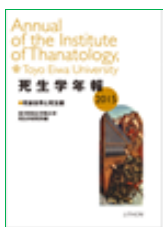
- 会場 東洋英和女学院大学大学院 201 教室  
六本木駅（日比谷線徒歩 10 分）麻布十番駅（大江戸線徒歩 5 分、南北線徒歩 7 分）
- 参加費 連続講座各回 500 円・シンポジウム各回 1,000 円  
(本学院在校生・教職員は全回無料)
- 事前申込不要 □当日先着順 100 名様
- 問合せ先 東洋英和女学院大学死生学研究所 〒106-8507 東京都港区六本木 5-14-40  
03-3583-4035 (Fax 専用) shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

日程 (土曜日) 30 分前から受付開始			発表者	所属	題目
4 月 18 日	14:40~ 16:10	第 1 回 連続講座	北沢 裕	本学非常勤講師	「臨死体験の語り」とその語り
	16:20~ 17:50	第 2 回 連続講座	津曲 真一	東京理科大学 非常勤講師	「チベットの死者の書」と六道輪廻図
5 月 9 日	14:40~ 16:10	第 3 回 連続講座	前川 美行	本学人間科学部 准教授	昔話『蛇婿入』にみる心の変容 —蛇を殺した針を抜く
	16:20~ 17:50	第 4 回 連続講座	近藤 二郎	早稲田大学 文学学術院教授	エジプトの死後世界
7 月 25 日	14:40~ 17:50	シンポジウム 「現場が育む」 —被災地での共創と若い力 (司会 西洋子)	弓削田 綾乃	早稲田大学スポーツ科学研究センター招聘研究員	わたしがそこに通う理由 —TEAWASE 参加者の意識から考える
			板井 志郎	早稲田大学理工学術院 助教	被災地での研究から見えてきたもの
			木津 石生	みんなのダンスフィールドコー ディネーター・工学院大学 3 年	想い共有 —被災地の人々との作品作りを通じて
			TEAWASE 参加の大学生・卒業生		被災地で活動する大学生・卒業生からのメッセージ
10 月 24 日	14:40~ 16:10	第 5 回 連続講座	石井 香世子	本学国際社会学部 准教授	いのちと国家とお金 —東南アジアから考える
	16:20~ 17:50	第 6 回 連続講座	渡辺 和子	本学人間科学部教授	生死をかける誓約の伝統 —古代メソポタミアから現代まで
11 月 21 日	14:40~ 17:50	シンポジウム 「生と死に寄り添う」 —臨床と宗教	奥野 滋子	順天堂大学医学部 客員准教授	死から学ぶ生きる力
			津曲 真一	東京理科大学 非常勤講師	チベット仏教と終末医療
			谷山 洋三	東北大学大学院文学研究科 実践宗教学寄附講座准教授	臨床宗教師の展望と課題
2016 年 1 月 16 日	14:40~ 16:10	第 7 回 連続講座	大林 雅之	本学人間科学部教授	「小さな死」によせて
	16:20~ 17:50	第 8 回 連続講座	森岡 正博	早稲田大学 人間科学部教授	人間のいのちの尊厳はどこにあるか?
2 月 13 日	14:40~ 16:10	第 9 回 連続講座	長尾 敦子	本学人間科学部 准教授	臓器移植の事前指示書をめぐる問題
	16:20~ 17:50	第 10 回 連続講座	福田 周	本学人間科学部教授	石川啄木—短歌にみる生と死の表現—

(財)国際宗教研究所・共催  
「生と死」研究会第 14 回例会  
(司会・渡辺和子)

<2015 年 4 月 1 日作成>

東洋英和女学院大学死生学研究所編 (リトン刊)



## 『死生学年報 2015 死後世界と死生観』

定価 2,500 円 + 税 一般書店でご注文・ご購入いただけます